Ⅶ. 調査結果からみた傾向

Ⅶ．調査結果からみた傾向

調査結果について客観的に集計および分析してきたが、それら結果を横断的にみると以下のような傾向がうかがえた。

１．全体的にみた傾向

①「ごみゼロ社会実現プラン」目標指標の達成状況

・前回値との比較が可能な指標については、いずれも現状値が前回値を上回っており、少しずつではあるもののごみ減量化やごみ問題に関する県民の意識は高まっているものと思われる。
・「ごみゼロ社会実現プランの認知率」については半数に達しなかった。

目標指標	現状値	前回値との比較
ものを大切に長く使おうとする県民の率	58.3%	＋0.1 ポイント
環境に配慮した消費行動をとる県民の率	40.2%	＋0.8 ポイント
食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	40.6%	＋2.1 ポイント
ごみゼロ社会実現プランの認知率	45.6%	－

②目標指標の達成状況の違いによる県民の行動及び意識の差の分析

○目標指標の算出方法

「ごみゼロ社会実現プラン」（平成 17 年３月）で設定された４つの目標指標のうち、「ものを大切に長く使おうとする県民の率」、「環境に配慮した消費行動をとる県民の率」、「食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率」は、問２(1)～(4)、問３(1)～(2)の結果をもとに算出している。

■目標指標数値の算出のための根拠データ

環境関連行動に関する質問項目			よく当てはまる ①	少し当てはまる ②	あまり当てはまらない ③	まったく当てはまらない ④
(A)	問2 (1)	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまう	6.5%	30.7%	36.7%	24.1%
(B)	問2 (2)	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	11.7%	30.1%	35.1%	20.7%
(C)	問2 (3)	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	17.7%	43.5%	29.6%	7.1%
(D)	問2 (4)	一時期しか使わない商品であっても レンタル品などは使わず新品を購入する	20.9%	32.8%	28.3%	15.4%
(E)	問3 (1)	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか？	16.9%	50.1%	17.7%	13.6%
(F)	問3 (2)	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？	10.0%	38.3%	25.2%	24.6%

■目標指標数値の算出方法

目標指標	目標とする数値の根拠
ものを大切に長く使おうとする県民の率	(A)、(B)それぞれのの「③＋④」の平均
環境に配慮した消費行動をとる県民の率	(C)、(D)それぞれのの「③＋④」の平均
食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	(E)、(F)それぞれのの「③＋④」の平均

■目標指標の達成状況

環境関連行動に関する質問項目			目標指標 達成している ③＋④	目標指標 達成していない ①＋②
(A)	問2 (1)	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまう	60.8%	37.2%
(B)	問2 (2)	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	55.8%	41.8%
(C)	問2 (3)	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	36.7%	61.2%
(D)	問2 (4)	一時期しか使わない商品であっても レンタル品などは使わず新品を購入する	43.7%	53.7%
(E)	問3 (1)	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか？	31.3%	67.0%
(F)	問3 (2)	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？	49.8%	48.3%

○目標指標の達成状況の違いによる県民の行動及び意識の差の分析方法

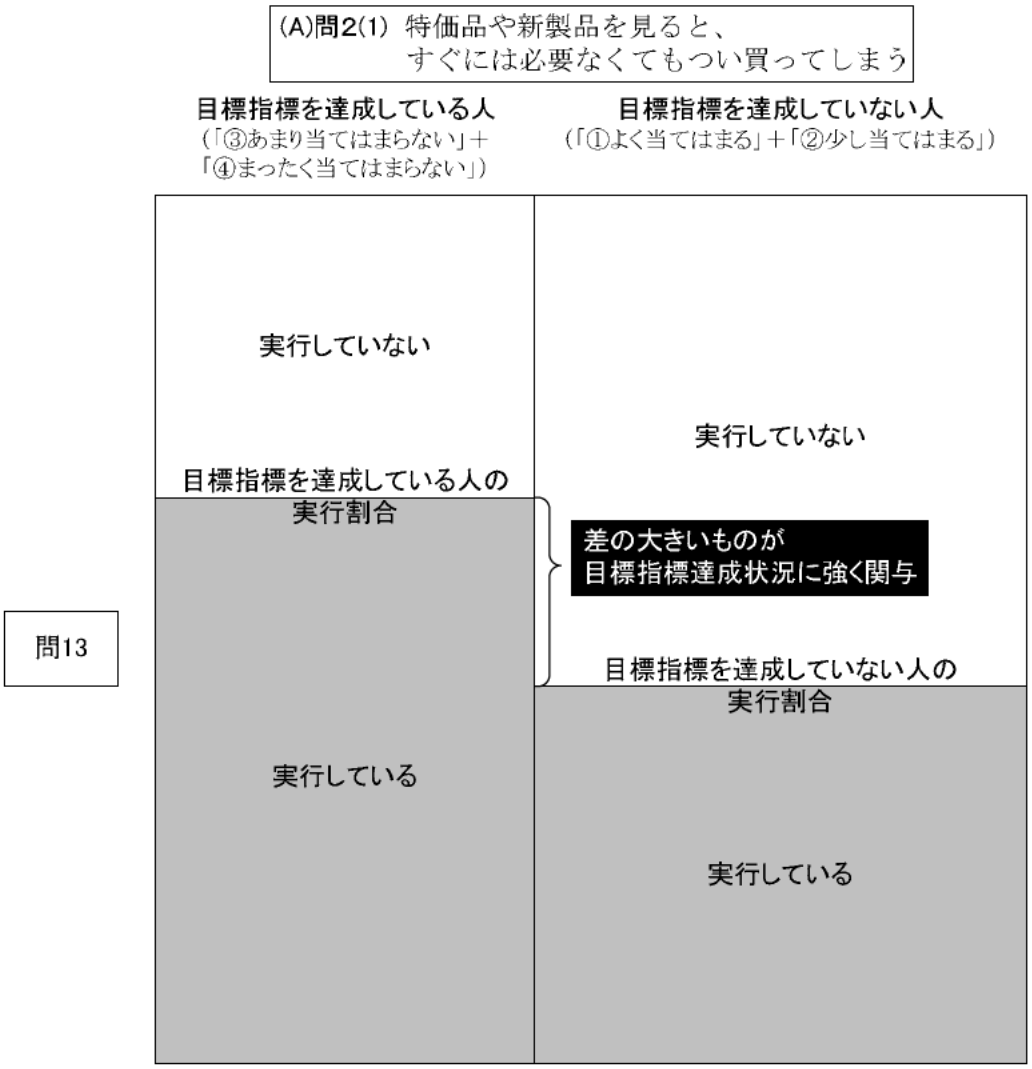
ここでは、目標指標の達成状況の違いによる県民の行動及び意識の差の分析を行うことで、差が解消されることが目標指標の達成率の向上に資すると仮定して、今後県民に普及・周知を図るべき項目を検討する。

目標指標の達成状況の違いによる県民の行動及び意識の差の計算方法

（問 13 と (A) 問 2-(1) における目標指標達成状況との相関で例示する）

a．(A) 問 2-(1)「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまう」について、目標指標を達成している人（「③あまり当てはまらない」＋「④まったく当てはまらない」）、目標指標を達成していない人（「①よく当てはまる」＋「②少し当てはまる」）ごとに回答数を計算し、それぞれについて回答者数を母数にして比率にする。

b．a で出た比率を元に、目標指標を達成している人と目標指標を達成していない人の差をみる。



具体的な計算例

回答数	目標指標を達成している人（「③あまり当てはまらない」＋「④まったく当てはまらない」）	目標指標を達成していない人（「①よく当てはまる」＋「②少し当てはまる」）	無効回答及び無回答	総計
ア 台所ごみの水切りをしている	1,825	1,096	55	2,976
イ 台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	331	186	12	529
ウ 台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	269	140	10	419
エ 市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	56	30	1	87
オ 台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	143	59	6	208
カ 生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	306	140	11	457
キ 紙くずなどを庭や畑で焼却している	231	158	8	397
ク 買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	923	585	24	1,532
ケ 詰め替え容器を使用した商品を買っている	1,194	757	39	1,990
コ ビール等はリターナブルびんを選んでいる	87	46	1	134
サ 量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	241	118	4	363
シ 包装を断ったり、簡易包装を依頼している	721	419	17	1,157
ス 食品は買いすぎないように注意している	1,428	651	35	2,114
セ 食事を食べ残さないようにしている	1,556	845	36	2,437
ソ 不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	341	236	10	587
タ 資源とごみの分別を徹底している	1,449	788	49	2,286
チ 地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	1,182	715	33	1,930
ツ その他	55	13	1	69
これらいずれもやっていない	6	12	0	18
計	2,238	1,371	73	3,682

比　率	目標指標を達成している人	目標指標を達成していない人		目標指標を「達成している人」と「していない人」の差
ア 台所ごみの水切りをしている	81.5%	79.9%		1.6%
イ 台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	14.8%	13.6%		1.2%
ウ 台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	12.0%	10.2%		1.8%
エ 市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.5%	2.2%		0.3%
オ 台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	6.4%	4.3%		2.1%
カ 生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	13.7%	10.2%		3.5%
キ 紙くずなどを庭や畑で焼却している	10.3%	11.5%		−1.2%
ク 買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	41.2%	42.7%	➔	−1.5%
ケ 詰め替え容器を使用した商品を買っている	53.4%	55.2%		−1.8%
コ ビール等はリターナブルびんを選んでいる	3.9%	3.4%		0.5%
サ 量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	10.8%	8.6%		2.2%
シ 包装を断ったり、簡易包装を依頼している	32.2%	30.6%		1.6%
ス 食品は買いすぎないように注意している	63.8%	47.5%		16.3%
セ 食事を食べ残さないようにしている	69.5%	61.6%		7.9%
ソ 不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	15.2%	17.2%		−2.0%
タ 資源とごみの分別を徹底している	64.7%	57.5%		7.2%
チ 地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	52.8%	52.2%		0.6%
ツ その他	2.5%	0.9%		1.6%

○目標指標の達成状況の違いによる県民の行動及び意識の差の分析結果

問 13 と(A)問 2-(1)における目標指標達成状況との相関

問 13「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「(A)　問 2-(1)特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまう」における目標指標の達成状況別にみてみる。

目標指標を達成している人のほうが実行している割合が 5 ポイント以上高かったのは「ス　食品は買いすぎないように注意している」、「セ　食事を食べ残さないようにしている」、「タ　資源とごみの分別を徹底している」の 3 項目であった。一方、目標指標を達成している人のほうが実行している割合が低かった項目が 4 項目あった。

■(A)　問 2-(1)特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまう

問 13　選択肢	全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	目標指標「達成している」と「していない」の差
ア 台所ごみの水切りをしている	80.8%	81.5%	79.9%	1.6%
イ 台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	14.4%	14.8%	13.6%	1.2%
ウ 台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	11.4%	12.0%	10.2%	1.8%
エ 市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.4%	2.5%	2.2%	0.3%
オ 台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	5.6%	6.4%	4.3%	2.1%
カ 生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	12.4%	13.7%	10.2%	3.5%
キ 紙くずなどを庭や畑で焼却している	10.8%	10.3%	11.5%	-1.2%
ク 買い物袋(マイバッグ)等を持参し、レジ袋をもらわない	41.6%	41.2%	42.7%	-1.5%
ケ 詰め替え容器を使用した商品を買っている	54.0%	53.4%	55.2%	-1.8%
コ ビール等はリターナブルびんを選んでいる	3.6%	3.9%	3.4%	0.5%
サ 量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	9.9%	10.8%	8.6%	2.2%
シ 包装を断ったり、簡易包装を依頼している	31.4%	32.2%	30.6%	1.6%
ス 食品は買いすぎないように注意している	57.4%	63.8%	47.5%	16.3%
セ 食事を食べ残さないようにしている	66.2%	69.5%	61.6%	7.9%
ソ 不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	15.9%	15.2%	17.2%	-2.0%
タ 資源とごみの分別を徹底している	62.1%	64.7%	57.5%	7.2%
チ 地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	52.4%	52.8%	52.2%	0.6%
ツ その他	1.9%	2.5%	0.9%	1.6%

問 13 と (B) 問 2-(2) における目標指標達成状況との相関

問 13 について、「(B)　問 2-(2) 買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える」における目標指標の達成状況別にみてみる。

目標指標を達成している人のほうが実行している割合が 5 ポイント以上高かったのは「ケ　詰め替え容器を使用した商品を買っている」、「シ　包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「ス　食品は買いすぎないように注意している」、「セ　食事を食べ残さないようにしている」、「タ　資源とごみの分別を徹底している」の 5 項目であった。

■ (B)　問 2-(2) 買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える

問 13　選択肢	全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	目標指標「達成している」と「していない」の差
ア 台所ごみの水切りをしている	80.8%	81.2%	80.6%	0.6%
イ 台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	14.4%	14.5%	14.0%	0.5%
ウ 台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	11.4%	12.1%	10.5%	1.6%
エ 市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.4%	2.0%	3.0%	−1.0%
オ 台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	5.6%	5.6%	5.6%	0.0%
カ 生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	12.4%	13.4%	11.2%	2.2%
キ 紙くずなどを庭や畑で焼却している	10.8%	11.0%	10.3%	0.7%
ク 買い物袋(マイバッグ)等を持参し、レジ袋をもらわない	41.6%	43.0%	40.2%	2.8%
ケ 詰め替え容器を使用した商品を買っている	54.0%	56.9%	50.4%	6.5%
コ ビール等はリターナブルびんを選んでいる	3.6%	4.3%	2.9%	1.4%
サ 量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	9.9%	10.4%	9.3%	1.1%
シ 包装を断ったり、簡易包装を依頼している	31.4%	33.8%	28.6%	5.2%
ス 食品は買いすぎないように注意している	57.4%	61.1%	53.3%	7.8%
セ 食事を食べ残さないようにしている	66.2%	70.4%	61.5%	8.9%
ソ 不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	15.9%	16.2%	15.8%	0.4%
タ 資源とごみの分別を徹底している	62.1%	64.4%	59.0%	5.4%
チ 地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	52.4%	54.2%	50.3%	3.9%
ツ その他	1.9%	2.3%	1.4%	0.9%

問 13 と(C)問 2-(3)における目標指標達成状況との相関

問 13 について、「(C)　問 2-(3)お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」における目標指標の達成状況別にみてみる。

目標指標を達成している人のほうが実行している割合が 5 ポイント以上高かったのは「ク　買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない」、「ケ　詰め替え容器を使用した商品を買っている」、「シ　包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「ス　食品は買いすぎないように注意している」、「セ　食事を食べ残さないようにしている」、「タ　資源とごみの分別を徹底している」の 6 項目であった。

■(C)　問 2-(3)お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ

問 13　選択肢	全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	目標指標「達成している」と「していない」の差
ア 台所ごみの水切りをしている	80.8%	82.0%	80.4%	1.6%
イ 台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	14.4%	14.8%	14.0%	0.8%
ウ 台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	11.4%	12.3%	10.7%	1.6%
エ 市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.4%	2.1%	2.6%	−0.5%
オ 台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	5.6%	6.8%	4.9%	1.9%
カ 生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	12.4%	13.0%	11.9%	1.1%
キ 紙くずなどを庭や畑で焼却している	10.8%	10.7%	10.7%	0.0%
ク 買い物袋(マイバッグ)等を持参し、レジ袋をもらわない	41.6%	46.4%	39.1%	7.3%
ケ 詰め替え容器を使用した商品を買っている	54.0%	57.4%	52.2%	5.2%
コ ビール等はリターナブルびんを選んでいる	3.6%	4.3%	3.3%	1.0%
サ 量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	9.9%	12.7%	8.3%	4.4%
シ 包装を断ったり、簡易包装を依頼している	31.4%	39.7%	26.8%	12.9%
ス 食品は買いすぎないように注意している	57.4%	62.7%	54.7%	8.0%
セ 食事を食べ残さないようにしている	66.2%	71.0%	64.0%	7.0%
ソ 不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	15.9%	18.1%	14.8%	3.3%
タ 資源とごみの分別を徹底している	62.1%	67.2%	59.2%	8.0%
チ 地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	52.4%	53.4%	52.3%	1.1%
ツ その他	1.9%	2.7%	1.4%	1.3%

問 13 と(D)問 2-(4)における目標指標達成状況との相関

問 13 について、「(D)　問 2-(4)一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する」における目標指標の達成状況別にみてみる。

目標指標を達成している人のほうが実行している割合が 5 ポイント以上高かったのは「ス　食品は買いすぎないように注意している」、「セ　食事を食べ残さないようにしている」の２項目であり、これらの２項目は(A)～(F)のいずれでも差は大きくなっている。

■(D)　問 2-(4)一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する

問 13　選択肢	全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	目標指標「達成している」と「していない」の差
ア 台所ごみの水切りをしている	80.8%	81.2%	81.0%	0.2%
イ 台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	14.4%	15.8%	13.1%	2.7%
ウ 台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	11.4%	11.4%	11.5%	-0.1%
エ 市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.4%	2.9%	2.0%	0.9%
オ 台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	5.6%	7.0%	4.3%	2.7%
カ 生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	12.4%	13.8%	11.2%	2.6%
キ 紙くずなどを庭や畑で焼却している	10.8%	12.4%	9.4%	3.0%
ク 買い物袋(マイバッグ)等を持参し、レジ袋をもらわない	41.6%	42.2%	41.6%	0.6%
ケ 詰め替え容器を使用した商品を買っている	54.0%	53.4%	54.7%	-1.3%
コ ビール等はリターナブルびんを選んでいる	3.6%	4.6%	2.9%	1.7%
サ 量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	9.9%	11.3%	8.9%	2.4%
シ 包装を断ったり、簡易包装を依頼している	31.4%	32.9%	30.6%	2.3%
ス 食品は買いすぎないように注意している	57.4%	64.0%	52.3%	11.7%
セ 食事を食べ残さないようにしている	66.2%	71.4%	62.4%	9.0%
ソ 不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	15.9%	17.7%	14.5%	3.2%
タ 資源とごみの分別を徹底している	62.1%	63.1%	61.1%	2.0%
チ 地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	52.4%	52.9%	52.4%	0.5%
ツ その他	1.9%	2.2%	1.6%	0.6%

問 13 と (E) 問 3-(1) における目標指標達成状況との相関

問 13 について、「(E)　問 3-(1) 使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか」における目標指標の達成状況別にみてみる。

目標指標を達成している人のほうが実行している割合が 5 ポイント以上高かったのは「イ　台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている」、「ク　買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない」、「ス　食品は買いすぎないように注意している」、「セ　食事を食べ残さないようにしている」、「タ　資源とごみの分別を徹底している」、「チ　地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」の 6 項目であった。

■ (E)　問 3-(1) 使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか

問 13　選択肢	全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	目標指標「達成している」と「していない」の差
ア 台所ごみの水切りをしている	80.8%	80.7%	80.9%	−0.2%
イ 台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	14.4%	18.0%	12.6%	5.4%
ウ 台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	11.4%	12.5%	10.9%	1.6%
エ 市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.4%	2.3%	2.5%	−0.2%
オ 台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	5.6%	7.1%	4.9%	2.2%
カ 生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	12.4%	14.8%	11.3%	3.5%
キ 紙くずなどを庭や畑で焼却している	10.8%	12.6%	9.9%	2.7%
ク 買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	41.6%	47.2%	39.3%	7.9%
ケ 詰め替え容器を使用した商品を買っている	54.0%	57.2%	52.5%	4.7%
コ ビール等はリターナブルびんを選んでいる	3.6%	4.1%	3.5%	0.6%
サ 量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	9.9%	12.2%	8.8%	3.4%
シ 包装を断ったり、簡易包装を依頼している	31.4%	34.3%	30.1%	4.2%
ス 食品は買いすぎないように注意している	57.4%	68.4%	52.7%	15.7%
セ 食事を食べ残さないようにしている	66.2%	80.4%	60.0%	20.4%
ソ 不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	15.9%	18.2%	15.0%	3.2%
タ 資源とごみの分別を徹底している	62.1%	67.6%	59.6%	8.0%
チ 地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	52.4%	56.7%	50.7%	6.0%
ツ その他	1.9%	2.9%	1.4%	1.5%

問 13 と (F) 問 3-(2) における目標指標達成状況との相関

問 13 について、「(F)　問 3-(2) 食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか」における目標指標の達成状況別にみてみる。

目標指標を達成している人のほうが実行している割合が 5 ポイント以上高かったのは「ク　買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない」、「ケ　詰め替え容器を使用した商品を買っている」、「サ　量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる」、「シ　包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「ス　食品は買いすぎないように注意している」、「セ　食事を食べ残さないようにしている」、「タ　資源とごみの分別を徹底している」、「チ　地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」の８項目であった。

■ (F)　問 3-(2) 食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか

問 13　選択肢	全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	目標指標「達成している」と「していない」の差
ア 台所ごみの水切りをしている	80.8%	82.0%	79.7%	2.3%
イ 台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	14.4%	15.1%	13.6%	1.5%
ウ 台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	11.4%	12.1%	10.5%	1.6%
エ 市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.4%	2.5%	2.2%	0.3%
オ 台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	5.6%	6.3%	4.9%	1.4%
カ 生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	12.4%	14.7%	10.1%	4.6%
キ 紙くずなどを庭や畑で焼却している	10.8%	10.7%	10.7%	0.0%
ク 買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	41.6%	45.1%	38.4%	6.7%
ケ 詰め替え容器を使用した商品を買っている	54.0%	57.7%	50.2%	7.5%
コ ビール等はリターナブルびんを選んでいる	3.6%	4.2%	3.1%	1.1%
サ 量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	9.9%	12.7%	7.0%	5.7%
シ 包装を断ったり、簡易包装を依頼している	31.4%	34.0%	28.8%	5.2%
ス 食品は買いすぎないように注意している	57.4%	64.9%	50.1%	14.8%
セ 食事を食べ残さないようにしている	66.2%	81.8%	50.7%	31.1%
ソ 不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	15.9%	17.9%	14.1%	3.8%
タ 資源とごみの分別を徹底している	62.1%	68.4%	55.7%	12.7%
チ 地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	52.4%	56.3%	48.7%	7.6%
ツ その他	1.9%	2.2%	1.5%	0.7%

(A)～(F)における目標指標達成状況による差

先述の(A)～(F)における目標指標を達成している人と達成していない人の差について全体的にみてみると、「ス　食品は買いすぎないように注意している」、「セ　食事を食べ残さないようにしている」は指標のいずれにおいても目標指標を達成している人のほうが５ポイント以上実行している割合が高くなっている。「タ　資源とごみの分別を徹底している」についても５項目で５ポイント以上実行している割合が高く、これらス、セ、タの３つの行動は目標指標の達成状況と相関が強い。

それらの行動以外にも、「ク　買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない」、「ケ　詰め替え容器を使用した商品を買っている」、「シ　包装を断ったり、簡易包装を依頼している」についても、一部の項目で実行状況にマイナスの関係もみられるものの、比較的強い相関がみられ、目標指標の達成状況との関係が比較的大きいものと考えられる。

また、「チ　地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」、「イ　台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている」、「サ　量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる」については、１～２項目で５ポイント以上実行している割合が高くなっており、特に目標指標「食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率」の算出根拠となる（E）（F）で高く出ている。

■目標指標を「達成している人の実行割合」と「達成していない人の実行割合」の差

目　標　指　標	ものを大切に長く使おうとする県民の率		環境に配慮した消費行動をとる県民の率		食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	
質　問　項　目	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)
ア 台所ごみの水切りをしている	1.6%	0.6%	1.6%	0.2%	−0.2%	2.3%
イ 台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	1.2%	0.5%	0.8%	2.7%	5.4%	1.5%
ウ 台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	1.8%	1.6%	1.6%	−0.1%	1.6%	1.6%
エ 市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	0.3%	−1.0%	−0.5%	0.9%	−0.2%	0.3%
オ 台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	2.1%	0.0%	1.9%	2.7%	2.2%	1.4%
カ 生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	3.5%	2.2%	1.1%	2.6%	3.5%	4.6%
キ 紙くずなどを庭や畑で焼却している	−1.2%	0.7%	0.0%	3.0%	2.7%	0.0%
ク 買い物袋(マイバッグ)等を持参し、レジ袋をもらわない	−1.5%	2.8%	7.3%	0.6%	7.9%	6.7%
ケ 詰め替え容器を使用した商品を買っている	−1.8%	6.5%	5.2%	−1.3%	4.7%	7.5%
コ ビール等はリターナブルびんを選んでいる	0.5%	1.4%	1.0%	1.7%	0.6%	1.1%
サ 量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	2.2%	1.1%	4.4%	2.4%	3.4%	5.7%
シ 包装を断ったり、簡易包装を依頼している	1.6%	5.2%	12.9%	2.3%	4.2%	5.2%
ス 食品は買いすぎないように注意している	16.3%	7.8%	8.0%	11.7%	15.7%	14.8%
セ 食事を食べ残さないようにしている	7.9%	8.9%	7.0%	9.0%	20.4%	31.1%
ソ 不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	−2.0%	0.4%	3.3%	3.2%	3.2%	3.8%
タ 資源とごみの分別を徹底している	7.2%	5.4%	8.0%	2.0%	8.0%	12.7%
チ 地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	0.6%	3.9%	1.1%	0.5%	6.0%	7.6%
ツ その他	1.6%	0.9%	1.3%	0.6%	1.5%	0.7%

③前回調査との比較からみえる傾向

○ごみ問題に関する意識は緩やかに上昇、行動は横ばい

・ごみ問題に関する意識（問１）をみると、「とてもそう思う」との積極的な回答を示した割合は前回調査とくらべてほぼ横ばいであったものの、「少しそう思う」を含めると微増しており、緩やかではあるものの意識は高まりがみられる。ごみ問題に関する行動（問２）については大きな変化はみられない。「食べ物ごみの廃棄（問３）については廃棄しない人の割合（「ほとんどない」および「あまりない」）が増加している。」

・意識と行動の相関関係をみると、対象 11 市町の中で前回調査と比べて意識・行動ともに上がったのが３市町（四日市市、熊野市、菰野町）、ともに下がったのは１市町（津市）であった。前回調査で比較的意識の高かった伊勢市、松阪市、桑名市、津市などがいずれもポイントを下げており、高い意識の持続も課題となってくる。

○生活に身近な言葉の認知度は高い

・認知度（問４）の高い言葉は「リサイクル」、「家電リサイクル法」、「ごみゼロ社会」、「エコライフ」、「容器包装リサイクル法」等の順となっており、生活に身近な言葉の認知度が高くなっている。

・前回調査から認知度が上がっているのは「リサイクル」、「エコライフ」、「スローライフ」、「リユース」、「リデュース」、「３Ｒ」であり、「３Ｒ」に関連する言葉はこの３年間で浸透していることがうかがえる。「家電リサイクル法」、「ごみゼロ社会」などは認知度は高いものの前回調査よりは下がってしまっている。

○手間やコストをかけたごみの資源としての有効利用意識は低下傾向、ごみを減らすためにはリデュースが大切

・ごみの資源としての有効利用意識（問６）は、手間やコストをかけてでも有効利用すべきに対して「とてもそう思う」という積極的な意識の人で 3.9 ポイントの減、「少しそう思う」を合わせても 2.1 ポイントの減となっている。

・ごみを減らす取り組み（問７）の中では、「ごみそのものの発生を減らすこと（リデュース）」を最重要に挙げる回答が最も多く、前回調査と比べても上昇している。

○ごみの分別にかかる時間は減少傾向、ごみ出しにあたっての問題意識も減少

・ごみの分別にかかる時間（問 11）は、前回調査と比べて構成比率はほぼ変わらないものの、「数分程度」、「ほとんど時間をかけていない」が増加しており、住民の側のごみ分別への慣れも進んでいるものと思われる。

・ごみを出すにあたっての問題点（問 14）は、「収集日時が限られている」、「洗ったり束ねたり手間がかかる」などが依然多くなっているものの、大半の項目で前回調査より減少している。「市町村毎にルールが異なり覚えにくい」のみが前回調査に比べ増加しており、市町村合併によるごみ出しのルールの変化の影響も考えられる。

○家庭から出るごみの量は大半の品目で減量が可能

・暮らしの工夫によって家庭から出るごみの量を減らせる（問 15）ものとして、大半の品目で可能とする意見が増加しており、今後の意識啓発によってごみの減量も見込めるものと思われる。前回調査より減少している項目には「調理くず」、「紙容器、紙袋や包装紙」が挙がっており、「紙容器、紙袋や包装紙」については、自由記入意見で「そもそもごみのでない製品づくりを望む」声が出されるなど家庭での努力だけでは限界があり、製造者も一体となった社会ぐるみでの活動が求められている。

・可燃ごみの減量可能な割合（問 25）についても、「10～30％」が 49.8％とほぼ半数に至っており、10％以上の減量が可能としている人の合計は 67.2％と、全体の２／３の人が可燃ごみの減量を可能と考えている。

○ごみの有料化への賛成は増加傾向

・税金を使ってごみ処理をすること（問 19）について、ごみを出す人の応分負担や一部応分負担に

賛成する人が増加しており、ごみの有料化（問 20）に対しても「賛成」で 3.5 ポイントの増加、「どちらかというと賛成」まで含めると 5.4 ポイントの増加であるなど、ごみ処理の自己負担意識は高まっている。

・有料化にあたっての料金（問 22）については、「ごみ袋 45ℓ 1 袋 10 円」を挙げる人が増加しており、これは少しでも家計への負担を少なくしたい意識と合わせて、現状はごみの有料化ではないものの指定ごみ袋制度を導入している市町のごみ袋 45ℓ 1 袋あたりの単価が 10 円前後であることで、現状程度と考えている人も多いことも影響しているものと思われる。

○「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画意識はほぼ横ばい

・計画づくりへの住民参加の必要性（問 26(1)）について、「とてもそう思う」、「少しそう思う」を合わせた割合は前回調査とほぼ横ばいになっているが、「とてもそう思う」という積極的な意見は減少傾向にある。

・計画づくりへの参加意識（問 26(6)）は、「とてもそう思う」、「少しそう思う」を合わせた割合が 56.9％となっている。

○「ごみゼロ社会実現プラン」および「ごみゼロキャラクター」の認知度は過半数に至らず

・「ごみゼロ社会実現プラン」の認知度（問 27）は、「知っている」、「名前は聞いたことがある」を合わせて 45.6％であり、「ごみゼロキャラクター」の認知度（問 28）についても「知っている」および「見たことはある」を合わせて 27.2％と、いずれも半数は超えなかった。「ごみゼロキャラクター」については、キャラクターの名前の命名やごみゼロバスの運行などのＰＲ活動の実施が本アンケート調査の実施以降であったことから、今後の浸透が期待される。

２．クロス別にみた傾向

①年齢層による傾向

○年齢層によって購買意識や消費行動に違いが見られる

・若い年齢層では、「特価品や新製品を見ると、つい買ってしまう」（問２(1)）、「壊れたら修理するより買い替える」（問２(2)）、「環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」（問２(3)）、「賞味期限切れ等による食材廃棄や食べ残しによる食品廃棄が多い」（問３）などの傾向が見られる。
・一方、高年齢層では、「壊れたら修理するより買い替える」（問２(2)）や「レンタル品等より新品志向」（問２(4)）といった意識は低い。逆に、「もったいない」意識（問１(2)）や「まだ使える製品や容器などをくり返し使う」リユースの意識（問７）は高年齢層ほど高い。
・このように、高年齢層で「ものを大切にする」意識が高いのに対して、若い年齢層では「使い捨て」意識が高く、高年齢層と若い年齢層との意識、行動に違いが見られる。

○どの年齢層でもごみ処理費用に「ある程度負担」を受け入れ

・高年齢層になるほど、「多く出した者が多く負担するごみの有料化」（問 20）に対する「賛成」の割合が高くなるが、その差は僅かである。また、「賛成」に「どちらかというと賛成」を加えた「賛成」では、50 代以下の年齢層で割合が高くなる。
・いずれにしても、どの年齢層でも、ごみ処理費用に対して「ある程度の負担」を受け入れる姿勢がうかがえる。
・若い年齢層では、「ごみの有料化」にあたっては、「家計への負担が少ない料金とすること」の割合が高くなっている（問 21）。
・「ごみの有料化」を「市町指定のごみ袋」の購入の形で支払うことになった場合の受入可能料金（問 22）は、「ごみ袋 45ℓ１袋 10 円」がどの年齢層でも半数以上を占めており、若い年齢層になるほど、その割合が高くなる。
・若い年齢層になるにつれて、「ごみ処理は公共サービスなので、税金で処理するのがよい」（問 19）もやや高い割合を示している。

○「ごみの有料化」への対応は、どの年齢層も「買い物袋（マイバック）等持参」

・現在、ごみ減量化のため、「台所ごみの水切りをする」、「食事を食べ残さない」、「食品は買い過ぎないように注意する」などは、どの年齢層でも高い割合で行っている（問 13）。
・「ごみの有料化」が実施された場合、あるいはすでに実施されている場合の「ごみ減らし」についての対応（問 23）は、どの年齢層でも「買い物袋（マイバック）等を持参し、レジ袋はもらわない」がほぼ 70％と最も高い割合を示している。

○「可燃ごみ」の減量化努力可能、「10％～30％」が半数

・「家庭から出る可燃ごみ」の減量化努力が可能な数値（問 25）は、「10％～30％」が最も割合が高く、どの年齢層も約半数を占めている。
・「これ以上は減らせない」は、高年齢層ほど高くなる傾向にあり、70 歳以上では 10％を上回っている。

○「ごみ処理基本計画」への関心は若い年齢層ほど低い

・「ごみ処理基本計画」への参加の必要（問 26(1)）について、「とてもそう思う」という積極的賛同の割合は、高年齢層になるほど高くなる。
・これに対して、「まったくそう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた「そう思わない」の割合は、若い年齢層で高い。
・若い年齢層では、「計画づくりへの参加は手間や時間がかかる」（問 26(5)）、「住民参加の機会があっても参加したいとは思わない」（問 26(6)）と考えている人が多い。

○三重県の「ごみゼロ」施策についての認知度は、若い年齢層ほど低い

・三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」（問 27）について、「知らない」と答えた人の割合は、若い

年齢層ほど高くなり、30 代以下では６割を超えている。

・「ごみゼロキャラクター」（問 28）についても、「知らない」と答えた人の割合は、若い年齢層ほど高くなり、30 代以下では８割を超えている。

○「ごみゼロ社会」に若い年齢層の意識も高まりつつある

・今回の調査において、設問によっては、「ごみゼロ社会」の実現について、高年齢層に比べて若い年齢層の意識が消極的に見られる場面があった。しかし、前回調査と比較すると、前進の傾向が読みとれる。

・若い年齢層では、レンタル品やリサイクルショップに対する抵抗が少ない（問１(4)、問 24)。また、前回調査と比べると、衝動買いや食材・食品廃棄などは幾分減少しており、経年的には若い年齢層の意識も高まりつつあることがうかがえる。

・「ごみゼロ社会実現プラン」への参画方法（問 29）として、「アンケートなどに協力したい」や「ごみゼロプランに関する情報をホームページ等で読みたい」は若い年齢層ほど割合が高く、こうした方法を通じてさらに意識啓発を図っていく必要がある。

②地域的な傾向

○北勢地域

- 北勢地域では、「暮らしの中に不要物が多い」と感じている割合（問１(1)）や、ものを捨てることに対し「もったいない」と思う割合（問１(2)）は比較的低い市町が多い。しかし、前回調査と比べその割合は増加の傾向が見られる。
- 「商品の過剰包装感」（問１(3)）は、菰野町や四日市市、鈴鹿市で高まっている。また、四日市市や鈴鹿市では、「特価品や新製品を見ると、つい買ってしまう」割合（問２(1)）や「環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」割合（問２(3)）が低い。しかし、桑名市ではその逆の傾向が見られるなど、同じ北勢地域でも市町によって傾向の違いが見られる。
- 北勢地域の市町では、ごみの分別数が増えること（問 12）に対し「賛成」の割合が高く、「ごみの有料化」（問 20）についても「賛成」の割合は、他地域に比べて比較的高くなっている。
- 県の「ごみゼロ社会実現プラン」（問 27）や「ごみゼロキャラクター」（問 28）の認知度は、他地域に比べあまり高くない。

○中南勢地域

- 中南勢地域といっても、津市と松阪市では傾向にいくつかの違いが見られる。
- 津市では、「特価品や新製品を見ると、つい買ってしまう」割合（問２(1)）や「環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」割合（問２(3)）が高く、「修理より買い替え志向」（問２(2)）、「レンタル品等より新品志向」（問２(4)）が比較的強い。
- 一方、「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参加（問 26）については、津市よりも松阪市のほうが肯定的意見の割合が高くなっている。
- ごみの分別数が増えること（問 12）や「ごみの有料化」（問 20）について「賛成」と回答した割合は津市、松阪市ともに低く、特に津市では「ごみ処理は公共サービスなので、税金でまかなうべき」と回答した割合（問 19）が県内で最も高い。
- 県の「ごみゼロ社会実現プラン」（問 27）や「ごみゼロキャラクター」（問 28）の認知度は、他地域に比べて高いほうである。

○伊勢志摩地域

- 伊勢志摩地域の市町では、ごみ出しで困ること（問 14）として「収集日時が限られている」と回答した割合が他地域に比べて比較的高い。
- 伊勢市では、ごみ問題に関連する用語（問４）のうち「レジ袋の有料化」や「マイバッグ」の認知度が県内で最も高い。これに対して、鳥羽市や志摩市では全般的に用語の認知度が低いほうである。
- 伊勢市は、ごみの分別数が増えること（問 12）に対して「賛成」の割合が高い。
- 志摩市や鳥羽市では、「ごみの有料化」（問 20）に「賛成」と回答した割合が高く、指定ごみ袋の受け入れ可能金額（問 22）も他市町に比べて比較的高くなっている。
- 県の「ごみゼロ社会実現プラン」（問 27）や「ごみゼロキャラクター」（問 28）の認知度は、伊勢市においてやや高い。

○伊賀地域

- 伊賀地域では、「特価品や新製品を見ると、つい買ってしまう」割合（問２(1)）や「環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」割合（問２(3)）が高く、「修理より買い替え志向」（問２(2)）、「レンタル品等より新品志向」（問２(4)）が比較的強い。また、食材・食品の廃棄（問３）も比較的多い傾向が見られる。
- ごみ問題に関連する用語（問４）のうち「ごみの有料化」の認知度が比較的高い。
- ごみ出しで困ること（問 14）として「分別ルールが複雑で分かりにくい」と回答した割合が他地域に比べて比較的高い。
- 県の「ごみゼロ社会実現プラン」（問 27）や「ごみゼロキャラクター」（問 28）の認知度は、他地域に比べ高くなっている。

〇東紀州地域

- 東紀州地域では、「特価品や新製品を見ると、つい買ってしまう」割合（問２(1)）や「食べ残しによる食品廃棄が多い」割合（問３(2)）が低く、「レンタル品等より新品志向」（問２(4)）に当てはまらない人が多い。
- 一方で、「暮らしの中に不要物が多い」と感じている割合（問１(1)）やものを捨てることに対し「もったいない」と思う割合（問１(2)）は、尾鷲市が県内で最も低くなっている。
- 尾鷲市や紀宝町では、ごみの分別数が増えること（問 12）に対して「賛成」と回答した割合が低い。
- また、「ごみの有料化」（問 20）について「賛成」の割合が低く、「ごみ処理は公共サービスなので、税金でまかなうべき」と回答した割合（問 19）が高い。しかし、同じ東紀州地域でも、熊野市では分別数の増加やごみの有料化に対する「賛成」の割合が比較的高く、市町によって違う傾向が見られる。
- 全般的にごみ問題に関連する用語の認知度（問４）が、他地域に比べて低いほうである。
- 「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参加（問 26）は「必要」とする割合が高く、「計画づくりに住民が参加すれば、住民の要望や意見を反映できる」と考え、「機会があれば計画づくりに参加したい」と考える割合が高い。一方で、「計画は市町が主体的につくるほうがよい」と考える割合も高くなっている。
- 県の「ごみゼロ社会実現プラン」（問 27）や「ごみゼロキャラクター」（問 28）の認知度は、他地域に比べ低い。

③市町におけるごみ処理の状況による傾向

今回調査対象の 15 市町のうち、人口に対するごみの排出量の状況、および家庭系ごみの有料化制度・指定ごみ袋制度の導入状況をみると次のようになっている。

	１人１日あたりの家庭系ごみ排出量（家庭系＋集団回収）		家庭系ごみ有料化制度・指定ごみ袋制度の状況	
	kg／日	県平均との開き（※1）	制度の状況	備　考
津市	861	－	－	
四日市市	818	－	指定ごみ袋制度	（※2）
伊勢市	870	－	指定ごみ袋制度	可燃ごみ 45ℓ１袋　７円
松阪市	819	－	－	
桑名市	747	比較的少ない	ごみ有料化制度	可燃ごみ 45ℓ１袋　15 円
鈴鹿市	804	－	指定ごみ袋制度	（※2）
名張市	615	比較的少ない	－	※平成２０年４月からごみ有料化実施予定
尾鷲市	992	比較的多い	－	
鳥羽市	775	－	ごみ有料化制度	可燃ごみ 45ℓ１袋　45 円
熊野市	1,007	比較的多い	－	
志摩市	854	－	ごみ有料化制度	可燃ごみ 45ℓ１袋　50 円
伊賀市	785	－	ごみ有料化制度	可燃ごみ 45ℓ１袋　20 円
東員町	786	－	指定ごみ袋制度	可燃ごみ 45ℓ１袋　12.25 円
菰野町	751	－	指定ごみ袋制度	（※2）
紀宝町	884	比較的多い	－	

（※1）県平均：814、比較的多い：880 以上、比較的少ない：750 以下

（※2）四日市市、鈴鹿市、菰野町についてはごみ袋の規格についてのみ指定しており、価格の設定は行っていない　　出典：平成 18 年度実態調査速報値及びごみゼロ推進室資料より

○ごみの排出量と住民の意識・行動

- ごみの排出量と住民の意識、行動の状況（問１、問２、問３）の相関をみると、全般的にはあまり強い相関関係はうかがえない。
- 問２(4)「一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する」について「よく当てはまる」、「少し当てはまる」を合わせた割合は尾鷲市、熊野市、紀宝町で低くなっており、この設問での購買行動とごみの排出量は一致していない。
- 問３(1)「使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことがある」や、問３(2)「食べきれず、料理を捨ててしまうことがある」について、「よくある」、「たまにある」を合わせた割合が尾鷲市、熊野市、紀宝町で低くなっており、これら３市町では食べ残しによる食品廃棄が少ないことがうかがえるがそれらの市町のごみの排出量は多くなっている。

○ごみの排出量とごみ減量化・リサイクルの取り組み

- ごみの排出量とごみ減量化・リサイクルの取り組みの状況の相関をみると、全般的にあまり強い相関関係がうかがえず、ごみの排出量は、ごみ減量化・リサイクルの取り組み状況以上に地域性や年齢構成の影響を受けているものと思われる。

○ごみの排出量とごみ有料化への意識

- 問 20「出したごみの量に応じて、多く出した者が負担するごみの有料化をどう思うか」について「賛成」、「どちらかというと賛成」を合わせた割合は尾鷲市、熊野市、紀宝町で低く、名張市、鳥羽市などでは高くなっている。ごみの排出量の多い尾鷲市、熊野市、紀宝町で有料化への賛成意見が少ないことは、ごみ処理コストへの意識が高まっていないことによるもの思われる。

〇ごみ有料化・指定ごみ袋制度の状況と住民の意識・行動

・ごみの有料化制度および指定ごみ袋制度を導入している市町の住民の意識・行動をみると、ごみの減量化に対して意識が高まっている市町もあるが、依然として意識の高まりが少ない市町もあり、強い相関関係はみられなかった。

〇ごみ有料化・指定ごみ袋制度の状況と、ごみの分別およびレジ袋への意識

・問 12「ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか」について、ごみ有料化制度および指定ごみ袋制度を導入している市町だけの特徴は出ていない。また、問 18「いつも買い物をするお店がレジ袋を有料化にした場合、あなたの行動はどう変わるか」についても、ごみ有料化制度および指定ごみ袋制度を導入していることとの相関はみられなかった。

〇ごみ有料化・指定ごみ袋制度の状況と、ごみの有料化への意識

・問 19「増え続けるごみを減らすため、ごみ（可燃ごみ）の排出に料金を課す市町が増えています。税金を使ってごみ処理を行うことについてどう思いますか」について、「ごみ処理は公共サービスなので、税金で処理するのがよい」と答えた割合は、ごみ有料化制度および指定ごみ袋制度を導入している市町で低くなっており、最も低いのは志摩市の 17.0%となっている。

・問 20「出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化についてどう思いますか」について、「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせた割合をみると、低いほうから 3 市町（尾鷲市、紀宝町、津市）はいずれもごみ有料化制度および指定ごみ袋制度を導入していないことから、裏を返せばそれらの制度を導入した市町では住民がごみ処理費用を負担することへの意識が高まっていることがうかがえる。

・有料化にあたっての料金については、大半の市町で「ごみ袋 45ℓが 1 袋 10 円」を多く挙げている中で、現在ごみ袋の有料化制度を導入しており、かつ比較的高い料金設定をしている志摩市、鳥羽市において「ごみ袋 45ℓが 1 袋 50 円」の割合が高く、特に志摩市は 15 市町の中で唯一「ごみ袋 45ℓが 1 袋 50 円」が最も多くなっており、実際のごみ袋単価が受け入れられていると考えられる。

④モデル事業実施市町における事業の影響

「ごみゼロ社会実現プラン」に掲げるごみ減量化施策をより効果的なものとし県全体での展開につなげるために、市町が地域住民、事業者、団体等と協働して行う実験的・先駆的な取組を「モデル事業」として支援している。

モデル事業の内容と実施年度、実施市町は次表のとおりとなっており、ここでは、実施の６市町について、住民の意識、行動の調査結果をみるとともに、前回調査の結果との比較が可能な桑名市、鳥羽市、伊勢市については、比較による変化をみることとした。（前回調査との比較については、市町村合併前の旧市を対象）

	市町村	モデル事業	事業概要
平成17年度	桑名市	市民参画によるごみ処理基本計画づくり	市町村合併に伴い、新たな市町村ごみ処理基本計画を住民・ＮＰＯ等市民参画により策定する。
	伊賀市	家庭系ごみ有料化制度の導入検討	家庭系ごみの有料化によりごみの減量化と分別の徹底を図るため、住民や団体、行政で組織される伊賀市ごみ減量・リサイクル等推進委員会を設置し、有料化制度に関する協議・検討を行うとともに、先進事例調査やアンケートによる住民意識調査、分別ハンドブックの作成などを行う。
	紀宝町	生ごみ堆肥化システムの実証試験	生ごみ堆肥化の取組を町全域に展開するため、その前段階として実験処理場を設置するとともに、町内で生ごみ等を分別収集するモデル地区を設定し、生ごみの堆肥化システムに係る実験事業を行う。
平成18年度	鳥羽市	リサイクルパーク整備事業	市民で構成する鳥羽生ごみリサイクル推進会議を中心に「リサイクルパーク」の計画・運営等の検討や施設整備を行う。
	鳥羽市	事業系ごみの減量化手法検討調査	事業者のごみ減量化の取組をより実効性を高めるために商工会議所と連携して事業系ごみの減量化手法検討調査を行う。
	東員町	町民参画によるごみ処理基本計画づくり	ごみ行政への町民参画を実現するため、町民・ＮＰＯ等で構成する計画策定会議を設置し、先進事例の視察、ワークショップ、アンケート調査、フォーラムなどの実施や町民を対象とした学習会など多様な参画の機会を提供し計画を策定する。
平成19年度	伊勢市	埋立ごみ（ガラス・陶磁器くず等）の分別収集システム検討事業	リサイクルの一層の進展や最終処分量の削減をめざして、新たな分別収集区分（ガラス・陶磁器類）の実施に併せて、自治会単位での回収ステーション整備を行い、自治会による自主・自律的な集団回収への移行を促進する。
	伊勢市	レジ袋削減（有料化の導入）検討事業	さらなるレジ袋の削減をめざして、市民、事業者、市等で構成する「ええやんかマイバッグ（レジ袋有料化）検討会」において、マイバッグ持参率 50%以上実現のため、レジ袋有料化も含めた議論を進め、事業者との自主協定の締結や、市民への啓発活動等を展開する。

○桑名市

- 全般的な傾向としてどの設問についても県平均に近く、強い特徴はあまりみられないものの、問６「ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか」について「とてもそう思う」が 62.7%と 15 市町で最も高くなっており、同設問を前回調査と比較すると県平均で 3.9%低下するなど他市町はいずれも低下している中で、桑名市のみ上昇しており意識の高さもうかがえる。
- 問 26(1)「ごみ処理基本計画づくりには、できるだけ多くの住民が参加することが必要だと思いますか」について「とてもそう思う」と答えた割合は 41.3%と 15 市町で最も低かった。また、問 26(2)「ごみ処理基本計画づくりに住民が参加すれば、住民の要望や意見を反映できると思いますか」についても「そう思う」と答えた割合が 25.0%と最も低くなっている。ただし、同設問については前回調査でも桑名市は低くなっており、また、他市町の中では桑名市より大きくポイントを落としている所もみられる。上記の問 26(1)および(2)以外の計画づくりに関する設問については極端な結果は出ていない。
- 住民の意識と行動の相関関係を前回調査と比較すると、行動は上昇しているものの意識は低下し

ている。ただし、意識、行動ともに県平均は上回っている。

○伊賀市

- ごみの減量化に関する住民の行動状況（問２、問３）をみると、ごみの減量化を意識した行動は15 市町の中でも低くなっている。
- 問 12「ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか」について「賛成」、「どちらかというと賛成」を合わせた割合は 82.8％と高いほうに入るものの、積極的な「賛成」は 33.6％と尾鷲市に次いで低い。
- ごみの有料化に対する意識として問 20「出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化についてどう思いますか」について「賛成」、「どちらかというと賛成」を合わせた割合は 75.4％と比較的高くなっている。
- ごみの有料化にあたってのごみ袋（45ℓ）１袋あたりの料金を聞いたところ、１袋 10 円が 64.3％であり 15 市町で２番目に高くなっている。

○紀宝町

- 問３(2)「食べきれず、料理を捨ててしまうことがある」について「よくある」、「たまにある」を合わせた割合をみると 42.0％で 15 市町中最も低くなっており、食べ残しによる食品廃棄が少ないことは、モデル事業の生ごみ堆肥化実証実験によるアナウンス効果の影響も考えられる。
- 問 13「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、紀宝町の全般的な傾向としては県全体の平均もしくは平均より若干下まわるものが多くなっている中で、「市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している」は県平均の 2.4％に対し 8.1％と他の市町に比べ際だって高くなっており、モデル事業の実績が現れている。
- 問 20「出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化をどう思うか」について「賛成」、「どちらかというと賛成」を合わせた割合は 65.7％で 15 市町中最も低く、ごみ処理に対する住民の応分負担の意識は低いことがうかがえる。

○鳥羽市

- 問７「ごみを減らす取り組みの中で大切なもの」で「まだ使える製品や容器などを、くり返し使うこと（リユース）」、「ごみではなく資源として分別し、再び原材料として有効利用すること（リサイクル）」を合わせた割合は 40.7％と 15 市町で最も高いなどリユース・リサイクルに対する意識が他市町に比べて高くなっている。県全体では前回調査とほぼ横ばいの傾向である中、鳥羽市では前回の 36.8％から 3.9 ポイント増加しており、モデル事業の実績が現れているものと思われる。
- 問 13「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している」と答えた割合は県平均 2.4％に対し鳥羽市は 4.7％と高くなっている。これは紀宝町に次いで高い数字であり、鳥羽市、紀宝町ともにモデル事業で生ごみ堆肥化の取り組みを推進していることから、モデル事業が端的に住民の行動につながっているものと思われる。
- 問 20「出したごみの量に応じて、多く出した者が負担するごみの有料化をどう思うか」について「賛成」、「どちらかというと賛成」を合わせた割合は 79.5％と 15 市町で最も高くなっており、ごみの排出量に対する応分負担の意識が高い。また、同設問については前回調査においても「賛成」、「どちらかというと賛成」を合わせた割合は鳥羽市が最も高く（73.3％）、かつ今回調査でも 5.8 ポイントの増加をみせている。
- 住民の意識と行動の相関関係を前回調査と比較すると、意識は上昇しているものの行動は低下している。意識、行動ともにほぼ県平均に近くなっている。

○東員町

- 問 26(1)「ごみ処理基本計画づくりには、できるだけ多くの住民が参加することが必要だと思いますか」について「とてもそう思う」と答えた割合は 41.9％と桑名市に次いで低かった。しかし、上記の問 26(1)以外の計画づくりに関する設問については極端な結果は出ていない。
- 問６「ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか」について「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した人の割合は 93.5％であり、県平均の 92.1％を上回るなどごみの資源化への意識の高まりはうかがえる。

○伊勢市

・問 13「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない」が 75.1%と非常に高くなっており、次点である鳥羽市の 50.5%に比べて 25 ポイントほど、県平均の 41.6%に比べて 35 ポイントほど高くなっており、その特徴が際だっている。

・問 18「いつも買い物をするお店がレジ袋を有料化にした場合、あなたの行動はどう変わるか」について、「マイバッグを持参するなどして同じお店で買い物」とする割合が 90.3%と松阪市に次いで高くなっており、前回調査からも 3.4 ポイント増加するなど、高い意識がうかがえる。

・伊勢市における「マイバッグ持参運動およびレジ袋有料化運動」が平成 19 年９月 21 日から開始されたが、本調査の実施がその時期と重なる日程（９月 10 日発送～10 月３日締切）であったことから、時期的にもごみに対する伊勢市民の関心は高まっていたものと考えられる。しかし、住民の意識と行動の相関関係を前回調査と比較すると、行動は上昇しているものの意識は低下している。ただし、意識、行動ともに県平均は上回っている。

・問６「ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか」をみると「とてもそう思う」が 60.3%で 15 市町中２番目、「少しそう思う」までを合わせると 95.7%で最も高くなっており、資源の有効利用に対する意識は高い。また、問 12「ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか」について「賛成」が 46.0%と 15 市町で最も高く、資源の有効利用に対する協力意識も高くなっている。なお、問６については前回調査との比較が可能であったが、傾向の変化はあまり見られなかった。